

## 参考資料

### 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種への支援に関する看護系大学の取り組み（例）

#### A 大学

A 県では、ワクチンの配布については県の「ワクチン接種対策整備室」が主導している。B 市は保健部感染症予防課が担当し、県の整備室と調整して、ワクチン接種について準備を進めている。本学は大学から働きかけて B 市と連携が実現した。

本学は昨年 12 月の通知を受理後、大学の方針として B 市のワクチン接種に全面協力することを決定し、準備を進め 5 月 15 日にワクチン接種者への先行接種、23 日には地域の医療機関関係者への接種、30 日から高齢者への接種と準備が整った。

その過程で、B 市と契約の締結、保険の問題などを調整し、謝金の支払い方法等については大学の事務局が調整した。具体的には次の①～⑤のような手続で実施した。

①大学としての協力を決定する手続きをとり、推進する委員会を決めて進めた。

まずは、学長主導で B 市との調整を開始し、方針を会議で決定し、その後教授会に協力要請して、大学として取り組むことを決定する手続きをとった。その後、感染予防対策本部にワクチン接種支援班を置き、その班が中心になって具体的な調整をしてきた。

②開催回数と 1 回の開催に協力可能な人数を割りだし、教員 1 人当たり 5 回程度の協力となるよう調整した。

- \* 本学からは看護師・医師の有資格者 40 名程度が、さらに、大学院生数名が参加する予定。また、他大学から 10 数名が参加する。
- \* スケジュールは、5 月から 12 月までの日曜日のうち大学行事をさけて実施予定。
- \* 各回、看護師 10 名程度、医師 1 名（ICD）が協力する予定であり、本学教員は 5～6 回程度参加する予定。大学院生については希望もあり 10 回程度参加予定。他大学教員は 3～4 回の参加で調整した。
- \* 調整の上 6 ブースを準備した。必要人数は、各ブースに看護師 2 名担当／日、予診医師 3 名、観察者 3 室各 2 名、B 市の責任者と誘導員（約 40 名会場案内、駐車場案内など）の体制で実施される。

③謝金を受け取るようになるため、大学としての対応を決める。

謝金の受け取り方法についても調整し、④の契約書に反映させている。

大学が契約して大学の方針として日曜日のワクチン接種に協力するため、兼業の手続きをとって謝金を個人が受け取るが、休日の振替休をとれるように決定した。

④接種者名簿と実施日を明示し B 市との契約を行う。

- \* 実施のシフトを組んで、名簿と実施日を明示して B 市に渡している。
- \* これに基づき、B 市と大学が委託契約を締結した。
- \* 保険については、ワクチン接種全体で B 市が契約するとのことであった。

⑤ワクチンの先行接種を行う。

④の名簿等に基づき、ワクチンの先行接種の手続きがとられ、予診票が本学に送られて、記入後返送し、ワクチンが準備されて前日本学に届けられる。

5月に接種者の先行接種を行い、3週間後の金土日曜日に2回目接種を予定し、2回目接種で副反応が出たときの交代要員も調整した。また、23日はB市の医療者を対象として先行接種を行う予定である。

#### **B 大学**

今回のワクチン接種は、市区町村が実施主体になっている。一方、大阪や東京が大規模接種会場を用意というのは、都道府県が実施主体になるようである（大阪・東京は自衛隊が入るようだが）。大学が声をかけるのか、都道府県・市区町村から声がかかるのか、どちらもあり得るだろう。

B 県の場合は、県が大規模接種をしたいと考えており、県から人材支援の相談が入ってきたところである。一つの大学で、教育は継続しながらであるので、都道府県にも、市区町村にもとなると自滅しかねない。各大学が可能な参加方法を考えておくべきかと思っている。やみくもに協力の声を掛けずに、大学の場所、設置主体を考慮して、自大学はどこに協力できるかをしっかり計画することを提案したい。また、ワクチン接種への協力のために、ワクチン接種の優先を割り当てて欲しいという相談も、可能かと思う。

#### **C 大学**

C 県も市町村単位に対応であり、C市の集団接種は1か所のみ、他は市民が医療機関に直接、申し込むようで、現在、情報収集中である。それぞれの地域や大学の状況に応じて、できることを協力することを呼びかけ、どのような協力をしたかというデータも収集しておいた方がよいかもしれない。ワクチン接種への協力者を優先接種の対象としていただける地域がある場合には、それもよいと思う。

その後、県から依頼があり、大学としては参加できる教員・大学院生のリストを作成している。